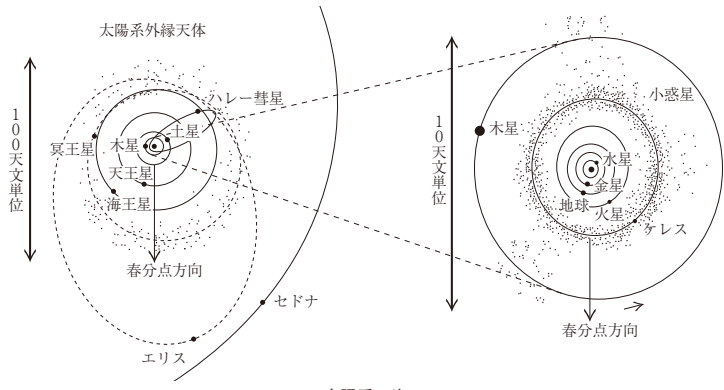


太陽系の構造と惑星の表 (理科年表平成22年, 丸善(株), 国立天文台編)



太陽系の姿

天体	軌道長半径 (天文単位)	軌道傾斜 (軌道度)	対恒星公転周期 (太陽年)	会合周期 (太陽日)	赤道半径 (km)	質量 (地球=1)	軌道平均速度 (km/s)	赤道重力 (地球=1)	密度 (g/cm ³)
水星	0.3871	7°.004	0.24085	115.9	2,440	0.05527	47.36	0.38	5.43
金星	0.7233	3°.395	0.61521	583.9	6,052	0.8150	35.02	0.91	5.24
地球	1.0000	0°.001	1.00004	—	6,378	1.0000	29.78	1.00	5.52
火星	1.5237	1°.849	1.88089	779.9	3,396	0.1074	24.08	0.38	3.93
木星	5.2026	1°.303	11.8622	398.9	71,492	317.83	13.06	2.37	1.33
土星	9.5549	2°.489	29.4578	378.1	60,268	95.16	9.65	0.93	0.69
天王星	19.2184	0°.773	84.0223	369.7	25,559	14.54	6.81	0.89	1.27
海王星	30.1104	1°.770	164.774	367.5	24,764	17.15	5.44	1.11	1.64
月	—	—	—	—	1,738	0.012300	—	0.17	3.34

地質年代の区分 (世界大百科事典, No.18, (株)平凡社)

現在の大気中の酸素含量の% ^{*5}	地質時代区分 ^{*1}				生物圏の発達		造山運動			
	1	5	10	100	代表的な動植物	おもな事件				
5億年前 10億年前 15億年前 20億年前 25億年前 30億年前 35億年前 40億年前 45億年前	←酸素大気出現 (無酸素大気)	×10 ⁶ 年前	顕生累代	新生代	第四紀	完新世	人類	被子植物	文明の発達	アルプス造山 パリスカン造山 カレドニア造山
						更新世	哺乳類	人類の出現		
						第三紀	鮮新世	貝類	地球に氷冠が出現 哺乳類の適応・発展	
							中新世	スラム ライト		
						中生代	白亜紀	爬虫類	恐竜の絶滅, 小惑星の衝突 顕花植物の出現	
								アンモナイト	最初の鳥類	
					ペレムナイト			パンゲア(超大陸)の分割開始		
					三畳紀		トリゴニア	最初の哺乳類 恐竜の出現		
							古生代	魚類	三葉虫, フズリナ類絶滅	
								両生類	爬虫類の出現	
					石炭紀 ^{*3}	サンゴ	鱗木, シダ種子植物の出現			
						ウミユリ	両生類の出現			
デボン紀	直角貝	あごをもつ魚類の多様化								
	シルル紀	筆石類	シダ植物の上陸							
オルドビス紀		三葉虫類	サンゴ礁の出現							
	カンブリア紀	腕足類	あごのない甲冑魚の繁栄							
原生代		(先カンブリア時代)	始生代 ^{*4}	エディアカラ動物群(クラゲ)など	脊椎動物(魚類)の出現	殻をもたない後生動物の出現				
	下等な真核生物(モネラ)			三葉虫の出現	真核生物(藻)の出現 縞状鉄鉱層消滅 オゾン層出現 原核生物の誕生					

*1 時代区分は代, 紀, 世などであるが, それぞれの時代区分に堆積した地層, つまり地質系統の区分は界, 統, と呼ばれる。たとえば中新世にできた地層ならば中新統という。
 *2 ベルム紀ともいう。 *3 アメリカの学者は, ミシシッピ紀(前期)とペンシルベニア紀(後期)に2分する。
 *4 太古代とすることもある。 *5 P. Cloud(1983)による。